



株式会社クラレ

2025 年度決算説明会

説明者

代表取締役社長 川原 仁

常務執行役員 経営企画室担当 藤原 純一

2026 年 2 月 10 日

■ 在庫評価差額のマイナス影響、販売数量の減少などを受け営業利益は減少
 イソプレンセグメントにおける減損損失の計上で当期純利益は減少 [億円]

	2025年度	2024年度	増減	2025年度予想 (2025年11月12日)	増減
売上高	8,084	8,269	△184	8,100	△16
営業利益	589	851	△262	600	△11
経常利益	515	815	△300	530	△15
親会社株主に 帰属する当期純利益	75	317	△243	230	△155
<参考>					
円/ドル (平均)	150	152		149	
円/ユーロ (平均)	169	164		168	
国産ナフサ 千円/kl	68	75		68	
米国天然ガス ドル/MMBtu	3.6	2.4		3.5	
欧州天然ガス ユーロ/MWh	37	34		39	

© 2026 KURARAY CO., LTD. All rights reserved.

2

川原：今日は、クラレグループの決算説明会にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。それでは、2025年度の決算説明を始めさせていただきます。

25年度の事業環境は、各国の貿易政策により先行きが見通しにくい状況が続きました。

日本経済はインバウンドを含む内需に支えられ、緩やかに回復しました。米国経済は、AI関連分野は好調だったものの、その他分野は低調に推移しました。欧州経済は緩やかな拡大傾向ではあったものの、低成長が継続しました。中国経済は不動産市況の低迷に加え、政府の景気刺激策に支えられてきた個人消費が減速し、低成長となりました。

そのような環境の中で当社グループの実績は、売上高は前年同期比 184 億円減の 8,084 億円、販売数量の減少や在庫評価差額のマイナス影響などにより、営業利益は前年同期比で 262 億円減の 589 億円となりました。

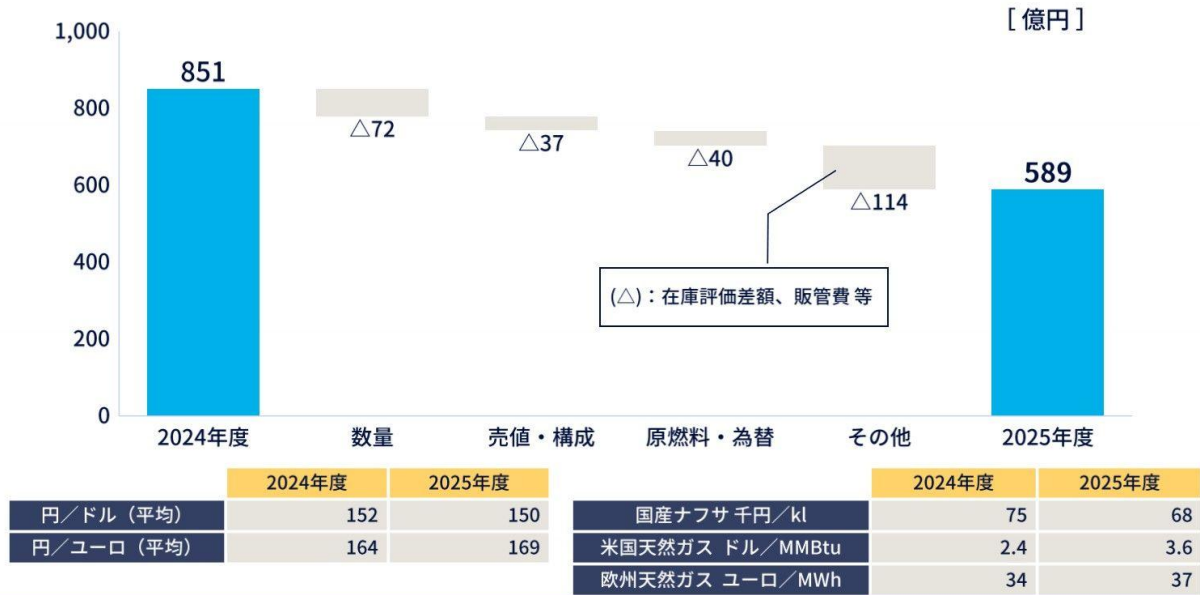
また、本日公表しております通り、イソプレンケミカル事業及びエラストマー事業の一部において、256 億円の減損損失を計上いたしました。

イソプレンセグメントでは、タイ拠点を活用した製品の拡販が進み、24年から25年にかけて赤字幅が縮小しております。さらに、付加価値品の販売拡大や川下展開などの収益改善施策により高収益化を進めておりますが、これらの取り組みは収益貢献に時間を要すると考えています。加えて、一部の製品で主要市場と位置付ける中国市場が、景気低迷長期化や市場競争激化により厳しい状況となっています。これらを踏まえて将来キャッシュフローを見積った結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額することとしました。

25年11月12日に発表した25年度予想に対して、売上高と営業利益はおおむね想定通りとなりましたが、減損損失の影響などにより、当期純利益は、24年度比 243 億円減の 75 億円となりました。

2025年度 営業利益増減分析

kuraray



© 2026 KURARAY CO., LTD. All rights reserved.

3

このスライドでは、営業利益の増減要因の全社まとめを、前年対比で示しております。

「数量」は、欧州経済の停滞等による販売数量の下振れなどで、72 億円の減益となりました。

「売値・構成」、「原燃料・為替」それぞれでの減益要因に加えて、「その他」に含める在庫評価差額のマイナス影響や販管費の増加などで、114 億円の減益となりました。

この結果、全体では 262 億円の減益となりました。



25年度 【完了】

- メタクリル事業の生産能力最適化
- ノンコア事業の譲渡（㈱岡山臨港、宝塚中山台ニュータウン）

【決定】

- 光学用ポバールフィルム生産設備の能力増強
- ポリエステル事業の再構築
- 〈クラリティ〉及び〈ベクスター FCCL〉の生産終了
- 中国メタクリル樹脂シート生産子会社及びスタンプ事業の譲渡

26年度

- 〈エバール〉シンガポール新プラント建設工事の遂行
- ジェネスタ事業及び歯科材料事業の更なる拡大
- 欧米における再生活性炭の生産能力増強に向けた意思決定
- コア事業への重点的な資源配分とノンコア事業の縮小及び撤退

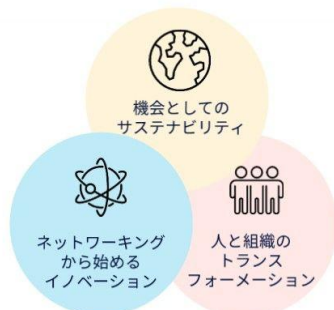
このスライドでは、中期経営計画「PASSION 2026」で掲げた事業ポートフォリオの高度化について、25年度の実績と26年度の取り組み計画を示しています。

25年度は、メタクリル事業の生産能力最適化や、合併の物流会社の岡山臨港や、保有不動産の宝塚中山台ニュータウンなど、ノンコア事業の譲渡を進めました。また、基盤事業として位置づけられる光学用ポバールフィルム生産設備の能力増強を決定しました。

一方で、ポリエステル事業の再構築や、アクリル系ブロック共重合体〈クラリティ〉及び銅張積層板〈ベクスターFCCL〉の生産終了を決定しました。中国メタクリル樹脂シートの生産子会社やスタンプ事業の譲渡も決定するなど、撤退・縮小・最適化の取り組みを加速させました。

26年度は、〈エバール〉のシンガポール新プラントの建設工事を着実に遂行してまいります。ジェネスタ事業や歯科材料事業においては、グローバルでの拡大を図るとともに、欧米で需要拡大が見込まれる再生活性炭は、生産能力増強に向けた意思決定を行いたいと考えております。

—3つの挑戦—



- 2035年までのGHG排出量削減目標の新たな設定
- 米国でのバーチャルPPA^{※1}締結
- SBT^{※2}認定取得・ポスト「PASSION 2026」に向けた取り組み
(GHG排出削減に資する技術開発課題の設定、クラレPSA^{※3}システムとICP^{※4}を組み合わせた新しい価値指標の構築)

- ネルンボ社の買収
- 再生医療の産業化・社会実装に向けたパートナー企業との共創

- グローバルな組織体制・業務プロセス変革の推進
- 事業成長に資するグローバル人事機能の構築
- デジタルの活用や他社との協業を通じた新規ビジネスモデルへの挑戦

※1バーチャルPPA（バーチャル電力購入契約）：再生可能エネルギー発電事業者から電力供給を受けることなく環境価値（再生エネルギー証明書）を購入する契約形態。
再生エネルギーとは、再生可能エネルギー由来の電力の環境価値や属性情報を電力の流れと切り離して取引するために証書化されたもの。
※2 SBT (Science Based Targets)：パリ協定が求める水準と整合した、企業が設定した温室効果ガス排出削減目標
※3 PSA (Portfolio Sustainability Assessment)：WBCSD（持続可能な開発のための世界経済人会議）が定めた製品ポートフォリオ評価指標
※4 ICP (Internal Carbon Pricing)：社内で炭素価格を設定し、CO2排出量を費用換算することにより、排出量削減、省エネルギー推進に対する経済的インセンティブを創出し、低炭素投資の推進、気候変動への対応を促す仕組み

このスライドでは、同じく「PASSION 2026」で掲げる3つの挑戦の進捗について示しています。

黄色の「機会としてのサステナビリティ」に関連しては、25年度は、35年までのGHG排出量削減目標の新たな設定や、米国でのバーチャルな電力購入契約の締結などを進めました。26年度は、SBT認証取得のほか、ポスト「PASSION 2026」に向けた取り組みとして、GHG排出削減に資する技術開発課題の設定や、クラレPSAシステムと社内炭素価格を組み合わせた新しい価値指標の構築などを進めてまいります。

青色の「ネットワーキングから始めるイノベーション」に関しては、25年度は、無機化学による表面加工技術を有する米国ネルンボ社を買収しました。また、当社は再生医療分野において、細胞培養向けにPVAマイクロキャリア〈スキャポバ〉を開発し、24年度から販売を開始しております。この領域における取り組みをより一層推進すべく、再生医療の産業化・社会実装に向けたパートナー企業との共創などを進めました。26年度は、これらの取り組みを加速し、新規事業創出に繋がりたいと考えております。

赤色の「人と組織のトランスフォーメーション」では、25年度は、コーポレート部門のグローバルな組織体制や業務プロセス変革の推進、及び事業成長に資するグローバルな人事機能の構築を目的としたプロジェクトを開始しました。グローバルに拡大したクラレグループの事業活動を支え、更なる発展に寄与すべく、26年度から、コーポレート部門の組織体制・業務プロセスを見直し、数年をかけて移行を図ります。

2026年度 業績予想

kuraray

	2026年度予想	2025年度	増減	2026年度見通し (2025年2月12日)	増減	[億円]
売上高	8,500	8,084	416	9,000	△500	
営業利益	700	589	111	1,100	△400	
経常利益	640	515	125			
親会社株主に 帰属する当期純利益	400	75	325	660	△260	
設備投資(決定ベース)	750	1,010	△260			
設備投資(受入ベース)	1,190	1,068	122			
減価償却費(のれん償却費込)	850	847	3			
研究開発費	270	284	△14			
		参考				
円/ドル (平均)	150	150		155		
円/ユーロ (平均)	175	169		160		
国産ナフサ 千円/kl	61	68		75		
米国天然ガス [※] ドル/MMBtu	3.8	3.6				
欧州天然ガス [※] ユーロ/MWh	37	37				

※ 米国及び欧州天然ガスの前提は、25年度第2四半期決算から公表

© 2026 KURARAY CO., LTD. All rights reserved.

6

このスライドでは、26年度の業績予想を示しています。

26年度の経済環境は、貿易政策に関する不確実性や地政学的緊張、中国経済の低成長継続などを背景に、不透明な状況が続くと想定されます。

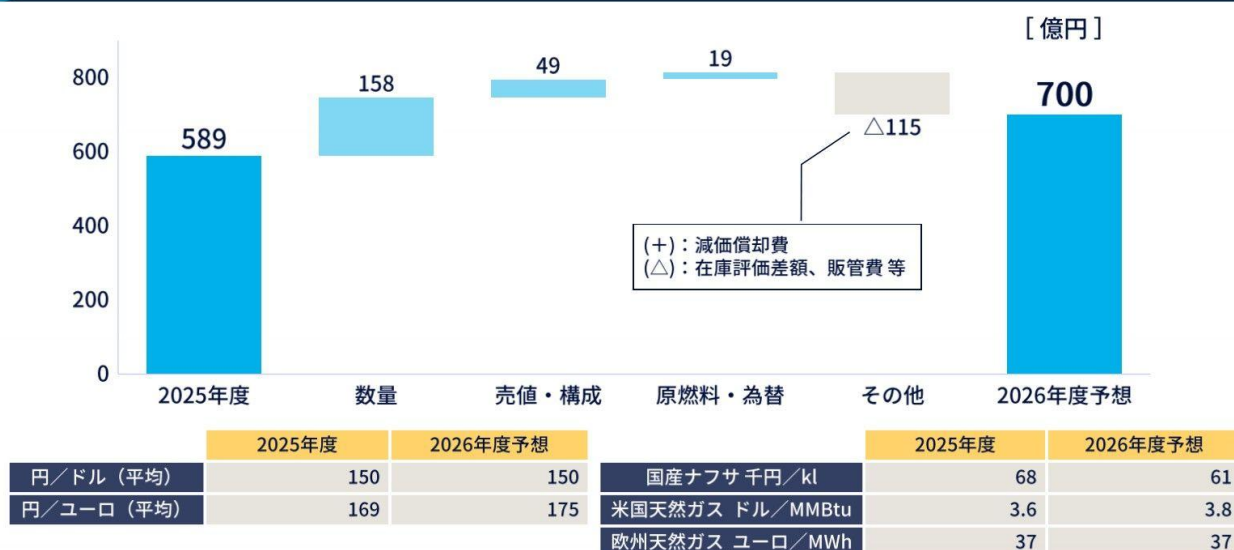
これらを踏まえた上で、26年度は、売上高は416億円増の8,500億円、営業利益は111億円増の700億円、当期純利益は325億円増の400億円をそれぞれ見込んでいます。

事業ポートフォリオの高度化には引き続き取り組んでまいります。縮小・撤退などに伴う大きな損失の計上については、25年度で一段落したと考えています。

設備投資の決定ベースは、再生活性炭の生産能力増強投資など、750億円を見込んでいます。設備投資の受入ベースは1,190億円、減価償却費は850億円、研究開発費は270億円となる見込みです。

2026年度 通期営業利益増減分析（前年実績との比較）

kuraray



© 2026 KURARAY CO., LTD. All rights reserved.

7

このスライドでは、26年度の営業利益予想について、25年度実績対比の増減要因を示しています。

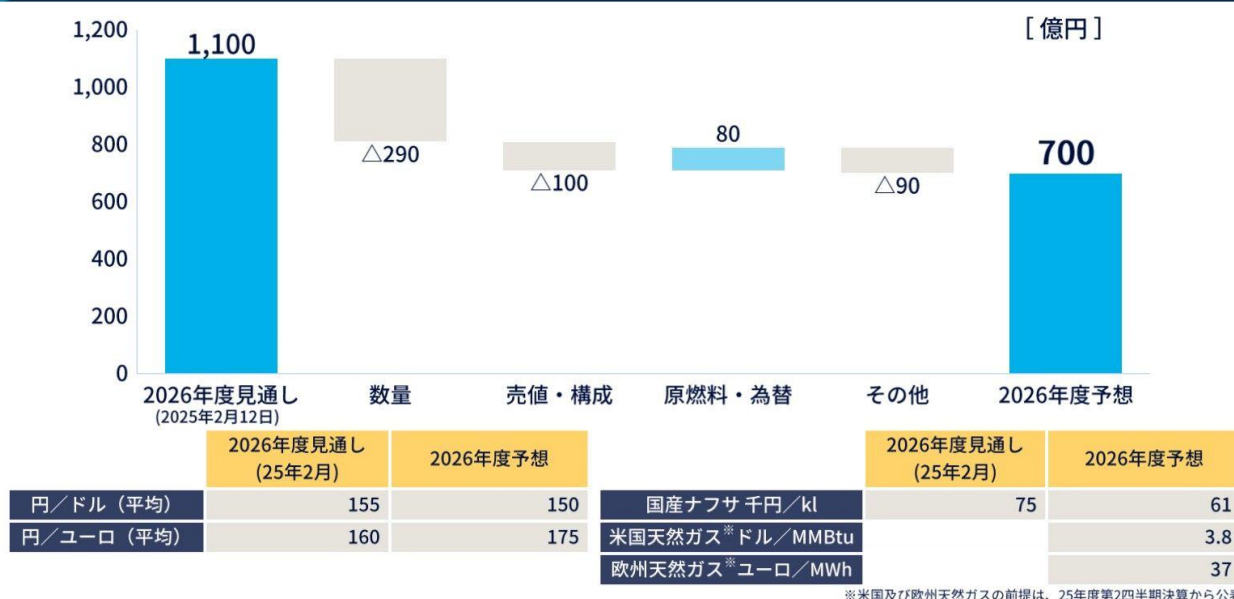
26年度は、主に成長事業が牽引する販売数量の増加などにより、「数量」が158億円の増益となる見込みです。

「その他」は、生産調整を行ったことによる在庫評価差額のマイナス影響や、販管費の増加などにより、115億円の減益を見込んでいます。

これらを合計し、全体では111億円の増益を見込んでいます。

2026年度 通期営業利益増減分析（前回見通しとの比較）

kuraray



© 2026 KURARAY CO., LTD. All rights reserved.

8

このスライドでは、26年度の営業利益予想について、昨年2月に公表した「PASSION2026」最終年度の見通し比の増減要因を示しています。

「数量」によるマイナス影響が最も大きく、290億円の減益となる見込みです。欧州経済の停滞による販売数量下振れ、米国関税政策により欧州市場に流入したアジア競合メーカー品との競争激化、在庫調整のための減産の影響などを見込んでいます。

「売値・構成」は、高機能中間膜事業の一部や、イソプレンケミカル事業及びエラストマー事業の一部において競争環境が激化しており、100億円の減益となる見込みです。「原燃料・為替」は、ナフサ価格が下落したことによるプラス影響などで、80億円の増益となる見込みです。「その他」は、在庫評価差額のマイナス影響などにより90億円の減益となる見込みです。

この結果、全体では400億円の減益を見込んでいます。

セグメント別では、参考資料として23ページ目に示しておりますとおり、ビニルアセートセグメントで260億円の減益、活性炭事業を含む機能材料セグメントで105億円の減益を見込んでいます。

活性炭事業は、足元では米国関税政策により、産業用途がマイナス影響を受けていますが、米国飲料水用途の需要は拡大しており、PFAS除去用途を中心とした中長期の成長ストーリーに変化は無いと考えています。当社は世界最大の活性炭メーカーとして、拡大する需要の確実な取り込みを図ってまいります。

		2024年度	2025年度	2026年度予想	2026年度見通し (2025年2月12日)
財務 KPI 	ROIC	7.3%	5.1%	6%	9%
	EBITDA※	1,703億円	1,436億円	1,550億円	1,860億円
	ROE	4.3%	1.0%	5%	9%
	EBITDAマージン(参考)	20.6%	17.8%	18%	21%

※営業利益+減価償却費

このスライドでは、中期経営計画「PASSION 2026」で掲げた財務 KPI の、25 年度の実績と 26 年度の予想を示しています。

利益の減少や減損損失を計上した影響などで、ROIC は 5.1%、EBITDA は 1,436 億円、ROE は 1.0%という結果になりました。

26 年度は、ROIC は 6%、EBITDA は 1,550 億円、ROE は 5%を見込んでいます。

株主還元

- 創立100周年を記念し、年間10円の記念配当を実施予定
- 100億円の自己株式取得を決定



当社は、株主の皆様に対する利益配分を経営の重要課題と位置付け、「親会社株主に帰属する当期純利益に対する総還元性向 50%以上、1株当たり配当金の維持・増額、自己株式取得の継続的实施を目指す」を株主還元方針としています。

この方針のもと、25年度の1株当たりの年間配当金は54円となる予定です。また、昨年は、300億円の自己株式の取得を行いました。25年度の総還元性向は、減損損失で当期純利益が減少した影響から、628.1%となる予定です。

当社は、2026年6月24日に創立100周年を迎えます。これまで当社を支えてくださった株主・関係者の皆さまに、心より御礼申し上げます。100周年を迎えることを記念し、年間10円の記念配当を実施予定です。これを加えた年間配当金は64円となる予定です。

更に、本年度は100億円、又は800万株を上限とした自己株式の取得を決定しました。今回取得する自己株式についてはその全株の消却を予定しており、消却株数及び消却時期については、決まり次第改めてお知らせいたします。

今後とも、これまでの方針に基づき、株主還元を充実させて参ります。

以上で私からの説明を終わります。

セグメント別 売上高・営業利益

kuraray

[億円]

	2025年度		2024年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ビニルアセテート	4,045	625	4,149	876	△104	△251
イソプレン	804	△49	764	△95	40	46
機能材料	2,069	108	2,080	129	△10	△21
繊維	607	26	627	12	△19	14
トレーディング	688	60	676	59	11	1
その他	408	18	509	23	△101	△5
調整額	△537	△201	△535	△154	△2	△47
合計	8,084	589	8,269	851	△184	△262

藤原：決算の詳細について、私から説明を申し上げます。

このスライドでは、各セグメントの売上高及び営業利益の実績を、前期との比較で示しています。イソプレンで赤字縮小、繊維が増益となりましたが、ビニルアセテート、機能材料が減益となりました。

ビニルアセテートセグメントの概要

kuraray

	2024年度	2025年度	増減
売上高	4,149	4,045	△104
営業利益	876	625	△251



ポパール樹脂	販売数量は前年の欧州向け物流の混乱に起因した特需が一巡し、欧米中心に需要が低調となり減少。利益面では原燃料価格上昇によりマイナス影響。
光学用ポパールフィルム	販売数量は中国の家電買替支援策や国際的なスポーツイベントに向けたテレビの買い替え需要に支えられ増加。利益面では在庫評価差額によりマイナス影響。
高機能中間膜	〈セントリグラス〉は米州を中心に販売が順調に推移したが、PVBフィルムは欧州・アジアを中心に競争環境の厳しさが増し、建築及び自動車用途ともに販売数量が減少。
水溶性ポパールフィルム	個包装洗剤の需要増加により販売数量は増加。
〈エパール〉	食品包装用途は、欧州・アジアで想定したほど販売数量が増えず。自動車用途は堅調に推移し、全体で販売数量は増加。利益面では在庫評価差額や原燃料価格の上昇によりマイナス影響。
主な増減要因	欧州経済の停滞等により販売数量は伸びず、また利益面では在庫評価差額や原燃料価格上昇によるマイナス影響があり、セグメント全体で減益。

© 2026 KURARAY CO., LTD. All rights reserved.

13

ここからはセグメント別に事業の状況を説明いたします。

最初はビニルアセテートセグメントです。当セグメントは、前年対比で減収・減益となりました。各事業の販売の状況は、右側に記載のコメントをご覧ください。

営業利益は、前年同期比で251億円減少しました。「数量」は、欧州経済の停滞等により販売数量が伸びず、98億円の減益となりました。「原燃料・為替」は、原燃料価格の上昇などで、56億円の減益となりました。「その他」は、在庫評価差額によるマイナス影響などで、47億円の減益となりました。

以上の結果、セグメント全体では251億円の減益となりました。

[億円]

	2024年度	2025年度	増減
売上高	764	804	40
営業利益	△95	△49	46

イソプレンケミカル エラストマー	イソプレンケミカルは中国の建築用途需要低迷に加え、上期に米国関税政策の影響で需要が前倒しとなった結果、第3四半期以降はその反動で需要が落ち込み。エラストマーは販売数量が増加も、米国関税政策により欧州市場等においてアジアの競合メーカーとの競争が激化。
〈ジェネスタ〉	電気・電子用途、自動車用途とも拡販が進み、販売数量が増加。



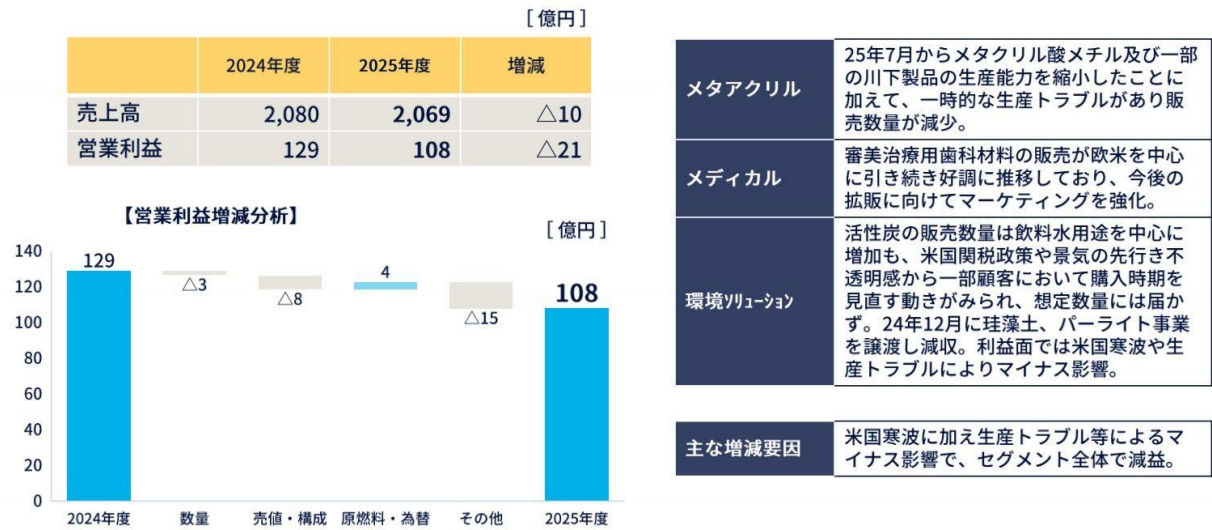
主な増減要因	タイ拠点の稼働が安定し、当該拠点を活用した拡販を進め、セグメント全体で増益。
--------	--

© 2026 KURARAY CO., LTD. All rights reserved.

14

イソプレンセグメントは、前年対比で増収・赤字幅の縮小となりました。各事業の販売の状況は、記載のコメントをご覧ください。

「数量」は、タイ拠点の稼働安定及びこの拠点を活用した拡販により販売数量が増え、19 億円の増益となりました。セグメント全体の営業利益は 46 億円の赤字幅の縮小となりましたが、冒頭社長から説明しましたとおり、当セグメントにおいて減損損失を計上しております。減損損失額は、イソプレンケミカル事業において 150 億円、エラストマー事業の一部において 106 億円、合計で 256 億円となります。



機能材料セグメントは、前年同期比で減収・減益となりました。各事業の販売の状況は、右側のコメントのとおりです。

「その他」は、活性炭事業において、米国寒波や生産トラブルによるマイナス影響などがありました。メディカルでは、拡販に向けたマーケティング強化による経費の増加があり、15 億円の減益となりました。セグメント全体では 21 億円の減益となりました。

	2024年度	2025年度	増減
売上高	627	607	△19
営業利益	12	26	14

〈クラリーノ〉

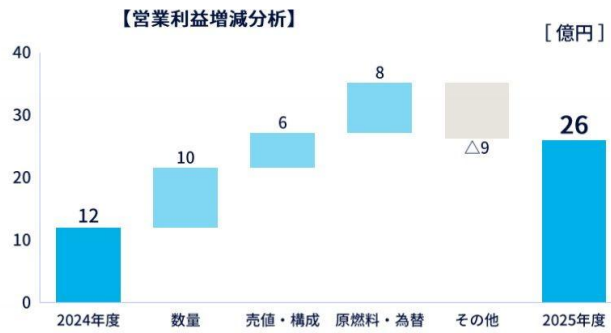
靴用途は新規採用の効果により堅調に推移したが、欧州市場での需要低迷や中国経済の成長鈍化、EVの生産調整の影響等により、ラグジュアリー用途及び自動車用途を中心に販売数量が減少。

繊維資材

欧州の建材用途は低調が続いたものの、〈ベクトラン〉の拡販などにより販売構成が改善。

主な増減要因

欧州経済の停滞やEVの生産調整等による影響を受けるも、販売構成の改善等による寄与があり、セグメント全体で増益。



繊維セグメントは、前年同期比で減収・増益となりました。

「売値・構成」は、ビニロン製品の値上げや、液晶ポリマー繊維〈ベクトラン〉の拡販による販売構成の改善などで、6億円の増益となりました。一方で、在庫評価差額のマイナス影響などにより、「その他」は9億円の減益となりました。

セグメント全体の営業利益は14億円の増益となりました。

[億円]

	2025年度	2024年度	増減
営業CF	986	1,383	△397
投資CF※	△981	△760	△221
フリーCF※	5	623	△618
設備投資 (受入へ-ス)	<u>1,068</u>	843	<u>226</u>
減価償却費 (のれん償却費込み)	847	852	△5
研究開発費	284	257	27

※ 投資CF、フリーCF：運用資金、M&A関連を除く

ふたたび、全社まとめの実績についてご説明します。このスライドは、25年度のキャッシュフロー及び主要な指標についてです。

営業キャッシュフローは前期比 397 億円減少し、986 億円となりました。投資キャッシュフローはマイナス 981 億円、フリーキャッシュフローは 5 億円となりました。

[億円]

	2025年12月末	2024年12月末	増減
流動資産	5,784	5,653	131
固定資産	7,251	7,260	△9
資産合計	13,035	12,912	123

	2025年12月末	2024年12月末
円／ドル（期末）	157	158
円／ユーロ（期末）	184	165

このスライドでは、貸借対照表の資産の部を昨年末と比較しております。

流動資産は 131 億円の増加となりました。これは、棚卸資産が増えた影響などによるものです。
固定資産は設備投資などにより増加した一方、イソプレレンセグメントにおける減損の影響などで、9 億円の減少となりました。

貸借対照表②(負債と純資産の部)

kuraray

[億円]

	2025年12月末	2024年12月末	増減
流動負債	2,282	1,982	300
固定負債	3,201	3,112	89
負債合計	5,483	5,094	389
純資産合計	7,552	7,818	△266
負債・純資産合計	13,035	12,912	123
自己資本比率	57.0%	59.2%	△2.2%

	2025年12月末	2024年12月末
円／ドル（期末）	157	158
円／ユーロ（期末）	184	165

© 2026 KURARAY CO., LTD. All rights reserved.

19

このスライドでは、貸借対照表の負債・純資産の部を示しております。

負債は、借入金やコマーシャル・ペーパーが増加し、389 億円の増加となりました。純資産は、円安で為替換算調整勘定が増加した一方で、配当金支払いや 300 億円の自己株式の取得を進めたことなどにより、266 億円の減少となりました。

この結果、自己資本比率は 2.2 ポイント減少し、57.0%となりました。

セグメント別 売上高・営業利益比較

kuraray

[億円]

	2026年度予想		2025年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ビニルシート	4,200	630	4,045	625	155	5
イソプレ	930	30	804	△49	126	79
機能材料	2,220	145	2,078	89	142	56
繊維	630	45	607	26	23	19
トレーディング	700	65	688	60	12	5
その他	410	10	399	37	11	△27
調整額	△590	△225	△537	△201	△53	△24
合計	8,500	700	8,084	589	416	111

※2026年度から、エレクトロニクスマテリアルズ推進本部のセグメント区分を「その他」から「機能材料」に変更しております。
これに伴い、2025年度の数値は当該変更を反映した数値となっています。

© 2026 KURARAY CO., LTD. All rights reserved.

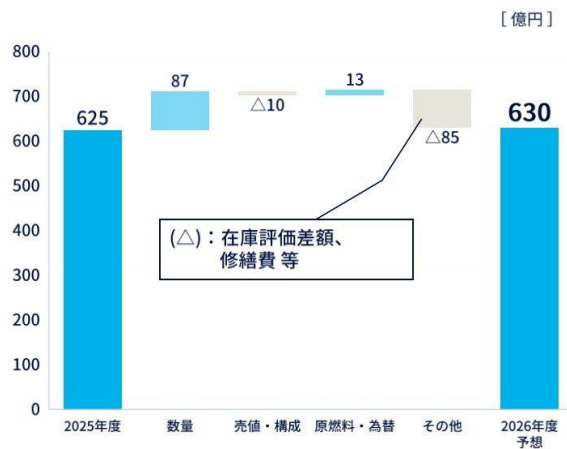
20

このスライドでは、各セグメントの26年度の売上高及び営業利益の予想を、25年度実績との比較で示しています。主要なセグメントは、増収・増益を予想しています。

セグメント別 営業利益増減分析

kuraray

ビニルアセテートセグメント



イソプレンセグメント



© 2026 KURARAY CO., LTD. All rights reserved.

21

このスライドでは、26年度の営業利益予想の増減要因をセグメント別に示しています。

ビニルアセテートセグメントは、「数量」増で87億円の増益を見込んでいます。

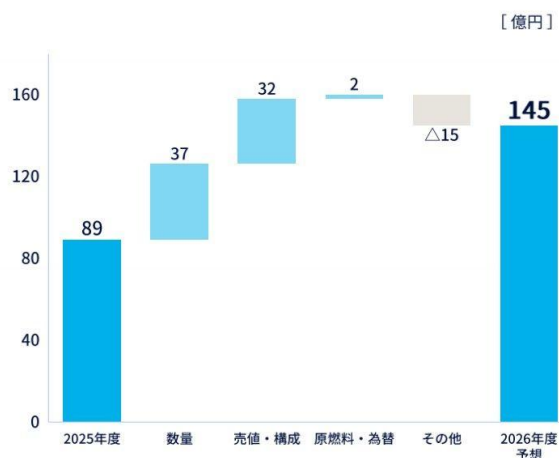
一方、「その他」は、第4四半期に生産調整を行ったことによる在庫評価差額へのマイナス影響などで、85億円の減益を予想しており、セグメント全体では5億円の増益に留まると見込んでいます。

イソプレンセグメントは、「その他」が、減損損失を計上したことによる減価償却費へのプラス影響などがあり、36億円の増益を見込んでいます。

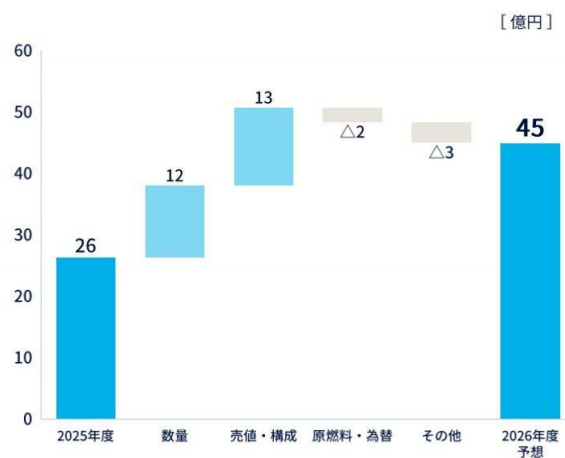
セグメント別 営業利益増減分析

kuraray

機能材料セグメント



繊維セグメント



© 2026 KURARAY CO., LTD. All rights reserved.

22

機能材料セグメントは、活性炭事業やメディカル事業における販売数量の増加等で、「数量」が37億円の増益を見込んでいます。

「売値・構成」は、昨年公表したヤシ殻価格の高騰に伴う、活性炭関連製品の値上げ効果や、販売構成の改善などで、32億円の増益を見込んでいます。

繊維セグメントは、「売値・構成」が昨年公表したビニロン製品の価格改定によるプラス影響や、販売構成の改善などで、13億円の増益を見込んでいます。

23 ページ目以降は詳細な計数情報となりますので、参考までにご覧ください。

なお、今回から開示内容を一部拡充しており、補足説明をさせていただきます。ページ飛びまして、30 ページ目をご覧ください。

【参考】セグメント別 売上高・営業利益比較（前回見通しとの比較）

kuraray

[億円]

	2026年度予想		2026年度見通し (2025年2月12日)		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ビニルセテート	4,200	630	4,380	890	△180	△260
イソプレソ	930	30	950	0	△20	30
機能材料	2,220	145	2,300	250	△80	△105
繊維	630	45	700	70	△70	△25
トレーディング	700	65	750	70	△50	△5
その他	410	10	395	20	15	△10
調整額	△590	△225	△475	△200	△115	△25
合計	8,500	700	9,000	1,100	△500	△400

※2026年度から、エレクトロニクスマテリアルズ推進本部のセグメント区分を「その他」から「機能材料」に変更しております。
これに伴い、2026年度見通しの数値は当該変更を反映した数値となっています。

© 2026 KURARAY CO., LTD. All rights reserved.

23

【参考】2026年度 業績予想

kuraray

[億円]

	2026年度予想			2025年度			増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	4,100	4,400	8,500	4,000	4,085	8,084	100	315	416
営業利益	240	460	700	263	326	589	△23	134	111
経常利益	210	430	640	213	302	515	△3	128	125
親会社株主に 帰属する当期純利益	130	270	400	140	△66	75	△10	336	325

© 2026 KURARAY CO., LTD. All rights reserved.

24

【参考】セグメント別売上高予想

kuraray

[億円]

	2026年度予想			2025年度			増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
ビニルセテート	2,050	2,150	4,200	2,029	2,016	4,045	21	134	155
イソプレソ	440	490	930	399	404	804	41	86	126
機能材料	1,060	1,160	2,220	986	1,093	2,078	74	67	142
繊維	310	320	630	298	310	607	12	10	23
トレーディング	340	360	700	339	349	688	1	11	12
その他	170	240	410	217	182	399	△47	58	11
調整額	△270	△320	△590	△268	△269	△537	△2	△51	△53
合計	4,100	4,400	8,500	4,000	4,085	8,084	100	315	416

※2026年度から、エレクトロニクスマテリアルズ推進本部のセグメント区分を「その他」から「機能材料」に変更しております。
これに伴い、2025年度の数値は当該変更を反映した数値となっています。

© 2026 KURARAY CO., LTD. All rights reserved.

25

【参考】セグメント別営業利益予想

kuraray

[億円]

	2026年度予想			2025年度			増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
ビニルセテート	220	410	630	299	327	625	△79	83	5
イソプレソ	15	15	30	△13	△36	△49	28	51	79
機能材料	60	85	145	17	72	89	43	13	56
繊維	15	30	45	△1	27	26	16	3	19
トレーディング	30	35	65	30	30	60	0	5	5
その他	0	10	10	19	18	37	△19	△8	△27
調整額	△100	△125	△225	△89	△112	△201	△11	△13	△24
合計	240	460	700	263	326	589	△23	134	111

※2026年度から、エレクトロニクスマテリアルズ推進本部のセグメント区分を「その他」から「機能材料」に変更しております。
これに伴い、2025年度の数値は当該変更を反映した数値となっています。

© 2026 KURARAY CO., LTD. All rights reserved.

26

【参考】セグメント別 四半期売上高推移

kuraray

[億円]

	2024年度					2025年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
ビニルセテート	990	1,098	1,067	994	4,149	1,004	1,025	985	1,031	4,045
イソプレソ	172	204	185	203	764	197	203	186	219	804
機能材料	487	540	496	557	2,080	476	505	504	584	2,069
繊維	138	174	150	165	627	134	163	140	170	607
トレーディング	153	169	160	194	676	167	172	151	197	688
その他	117	133	121	138	509	111	110	98	89	408
調整額	△136	△128	△142	△129	△535	△141	△127	△129	△140	△537
合計	1,922	2,190	2,036	2,121	8,269	1,948	2,052	1,935	2,150	8,084

© 2026 KURARAY CO., LTD. All rights reserved.

27

【参考】セグメント別 四半期営業利益推移

kuraray

[億円]

	2024年度					2025年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
ビニルセテート	248	191	267	170	876	159	140	187	140	625
イソプレソ	0	△40	△15	△39	△95	28	△41	△9	△27	△49
機能材料	32	32	28	36	129	20	9	34	45	108
繊維	△2	10	15	△10	12	△6	5	14	13	26
トレーディング	13	14	14	18	59	14	17	12	18	60
その他	4	5	10	4	23	1	6	7	3	18
調整額	△8	△45	△33	△68	△154	△30	△59	△44	△68	△201
合計	288	167	285	112	851	187	76	201	125	589

© 2026 KURARAY CO., LTD. All rights reserved.

28

【参考】セグメント別 売上高・営業利益（前回予想との比較）

kuraray

[億円]

	2025年度		2025年度予想 (2025年11月12日)		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ビニルアセテート	4,045	625	4,080	640	△35	△15
イソブレン	804	△49	810	△55	△6	6
機能材料	2,069	108	2,070	105	△1	3
繊維	607	26	620	20	△13	6
トレーディング	688	60	670	60	18	0
その他	408	18	420	10	△12	8
調整額	△537	△201	△570	△180	33	△21
合計	8,084	589	8,100	600	△15	△11

営業利益影響額の概算イメージ

(億円)
+ : 利益、△ : 損失

	2025年度上期				2025年度下期				2025年度
	定修費用	操業休止 関連	在庫評価 差額	計	定修費用	操業休止 関連	在庫評価 差額	計	計
ビニルアセテート	△20	△20	△30	△70	△5	20	30	45	△25
イソプレン	△20	0	5	△15	0	0	△10	△10	△25
機能材料	△5	△20	0	△25	0	0	5	5	△20
繊維	0	0	△5	△5	0	0	5	5	0
計	△45	△40	△30	△115	△5	20	30	45	△70

近年皆様から、当社の業績に対して、一過性要因や在庫評価差額などにより、事業の実態が把握しづらいといった声をいただいております。これを受けまして、こちらのスライドに示しております通り、定修費用、操業休止関連費用、在庫評価差額の概算を、セグメントごとに開示することになりました。

定修費用は、セグメントごとに主要なものを合算して開示しております。操業休止関連は、例えば昨年の米国寒波による工場停止などを対象としております。在庫評価差額は、他の項目と同様、半期ごとの影響額をお示しすることになりました。

このページでは 25 年度の実績額を、次のページでは 26 年度の見込み額を開示しております。

【参考】モデリングツール

kuraray

営業利益影響額の概算イメージ

(億円)
+：利益、△：損失

	2026年度上期（予想）				2026年度下期（予想）				2026年度（予想）
	定修費用	操業休止 関連	在庫評価 差額	計	定修費用	操業休止 関連	在庫評価 差額	計	計
ビニルアセテート	△40	0	△50	△90	△15	0	10	△5	△95
イソブレン	△20	0	5	△15	0	0	△5	△5	△20
機能材料	0	0	△15	△15	0	0	5	5	△10
繊維	0	0	△5	△5	△5	0	10	5	0
計	△60	0	△65	△125	△20	0	20	0	△125

© 2026 KURARAY CO., LTD. All rights reserved.

31

今後とも、皆様とのコミュニケーションを通じて、更なる開示の拡充に努めてまいりたいと考えています。

以上で説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。